

## 第14回 会員情報交換会／三日会

2015年10月7日(水)／パシフィコ横浜 会議センター「ベイブリッジカフェテリア」

第14回は、日本の民間気象情報サービスの草分けで、日本に本社を置く世界最大の気象情報会社である株式会社ウェザーニューズ代表取締役副社長の宮部二郎氏より「いざ、という時、人の役に立ちたい～What can I do for you?～」というテーマで、創業からこれまでの歴史観や民間気象会社ならではのサービス並びに今後の事業展開などについてお話をいただいた。

今回の開催は、小俣会長と宮部副社長とのお付き合いから実現が叶ったもので、70名を超える皆様ご参加いただき、神奈川県と横浜市からも部課長の幹部のご参加があった。

交流会の乾杯で小俣会長より「千葉にある会社だが、世界中で必要とされている情報を扱われており、また、本日ご参加の皆様にも活用されている方もおられると思う。さらなる可能性を秘めた事業であるので、我々としても新たなチャンスを探索してみたい」との挨拶があった。



### 「いざ、という時、人の役に立ちたい」

■当社は1970年に「海の气象台」としてスタートし、1986年にウェザーニューズとして創業した。現在は、気象情報サービス会社としては世界最大で、唯一の上場会社であり、海運会社とのお付き合いは船舶数で約6千隻、航空サービスで約5千便/日、気象データベースは世界最大の約2万種類、観測地点数は約1万箇所、有料個人会員は約260万人となっている。

■気象庁が『みんなの气象台』である一方、当社は『あなたの气象台』『あなたの情報交信台』で、単なる気象予報だけでなく対応策情報も発信する“リスクコミュニケーションサービス”が特長であると考えている。

■各種商業分野では、気象情報と販売特性の関係を分析し、廃棄ロスや生産調整などで効果を上げている。また、全国の自治体約600部署に水防対策情報を提供し、過剰体制の削減に寄与している。神奈川県とは大涌谷周辺の火山活動監視に協力するなどにより、減災への取り組みも強化している。

■「How Wonderful!」の思いから、北極海航路の利用促進にも力を入れており、独自の小型衛星を打ち上げるなど“夢”を現実に近づけている。

■“CHANGE”のGにあるT(=Taboo)を取ると、“CHANCE”が生まれるという思いで邁進したい。